

## I D 問答～新たに始まった、我(ら?)が精神の放浪?!～

作：I & D

②6 政策における「最適解」?!「トップリーダー」の役割は、可能な限りそれに近づけること?!

I：何か、最近の政策、とりわけ長引くコロナ禍対策においては、イライラや怒りを通り過ぎて、諦観?さえ覚えるような状況・動き(珍事件?)も続いており、本当に、どうなっているのだ?どうにかならないのか?というような思いも募っているのですが、そこには、ある意味「政策トップリーダー(達)」の不全(不在?)があるようにも思うのですが、どうですか?

D：確かにね?!何をやっているのだ?そんなことより、こちらの方が、ずっと先決(得策?)なのではないか?とか、まさに言いたいことは、山ほどありますよね?!とは言え、そうした「政策トップリーダー」の人達が、決していないというわけではないですよ?それぞれ、未知の経験の中で、精一杯頑張ってはいるのではないですか?!

I：もちろんそうでしょうが、ただ頑張っているだけでは、どうしようもない?!相当?の時間も経っているわけですから、そこに、これまでとは違った、それこそ何かの「ブレイクスルー(突破口)」が見出されていないのでは、とても「トップリーダー」とは言えないのではないのでしょうか?!

D：手厳しい?!ただし、それは、見方を変えれば、それぞれの状況(問題)の中での「最適解」が、なかなか見いだされていない?そういうことなのかもしれませんよ?!それだけ、一つひとつの問題が、複雑多岐であるということもあって?!もちろん、いわゆる力関係や人間関係も含めてですが?!

I：当然、それはあるのですが、しかし、一方で、現実場面においては、何が「最適解」なのかは、誰にも分かり(決められ?)ませんよね?!それこそ、例のスーパーコンピューター「富岳」を導入しても(どんなデータを、どのように入力するかということもありますが…)?!

D：でも、可能な限りそれに近い、言わば「準?最適解」は、見出すことは出来るのではないのでしょうか?先日、私は、別コーナー(「教育協働への道 77」)で、「(教育)政策トップリーダー」のことについて触れたのですが、新型コロナ対応にしろ、オリンピック開催にしろ、そこにおける「政策トップリーダー(達)」の振る舞いが、他の案件(事件・犯罪?を含む!)にも左右されて(もちろん、それ自体も、大問題ではありましたが!)、なかなか称賛に値するものにはならなかった(い)?!

I：確か、そこでは、「速やかな対策の構築」「周辺理解の獲得」を行い、「マネジメント能力を発揮して、教育政策を実行したことで学びの保障に資する成果が現れた」ということだったかと思いますが、そこでのテーマは、それぞれの「政策トップリーダー」達が、そうした局面(プロセスや成果)を、いかにして創り出した(す)のかということでしたよね?!

D：そうです!そこには、「共通コンピテンシー」としての「トップリーダーとしての情報収集・分析力、企画力、実行力、判断力」「目的や理念を共有し、組織や教職員を動かすリーダーシップ力」「ネットワーク活用力とスピード感」、そういうことが重要であるということであったわけですが、それがあれば、少なくとも「準?最適解」(場合によっては、その時の「最適解」?)は得られる?!

I：それが、実際のあり様であるということかと思いますが、要は、そういうことを続けていく、それが大事だということですよ?!果たして、今いる「政策トップリーダー(達)」はいかに?

D：まさに、その通りかと思いますが!その時その時の、言わば臨機応変の「最適解」は、なかなか見出すことは難しくても、その時必要だと思ったことを思い切ってやらなければ、その先は見えない(ない?)!そういうことかと思いますが!それが、ここで言う「準?最適解」ということですが、その「準?最適解」を地道に、そして果敢に見出していくこと!そこに、「トップリーダーとしての情報収集・分析力、企画力、実行力、判断力」「目的や理念を共有し、組織や職員を動かすリーダーシップ力」「ネットワーク活用力とスピード感」が介在しているということですよ?! (つづく)